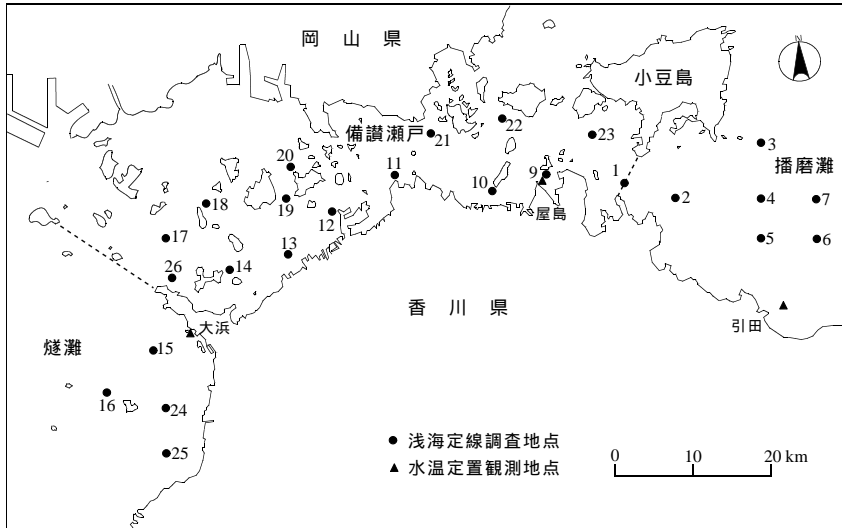


# 香川県漁海況速報 平成19年 8月 (H19-5号)

香川県水産試験場

## 1. 海況

### 1) 観測地点



### 2) 浅海定線調査

#### (1) 調査日

平成19年8月6日 (播磨灘) 1日 (備讃瀬戸、燧灘)

#### (2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「平年並みからやや高め」、塩分は「平年並みからやや高め」、透明度は「平年並み」、溶存酸素は「やや低めからかなり高め」であった。

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度 (m)	溶存酸素 (ml/L)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層		表層	底層
播磨灘	7地点平均値	25.2	24.1	23.0	31.7	31.8	32.0	7.2	4.56	4.08
	平年値	25.5	24.2	22.3	31.5	31.6	31.9	7.9	4.99	3.25
	平年偏差	-0.3	-0.1	0.7	0.3	0.2	0.1	-0.7	-0.43	0.83
	状況	平年並み	平年並み	やや高め	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	やや低め	かなり高め
備讃瀬戸	14地点平均値	25.2	24.7	24.6	32.1	32.2	32.2	5.2	4.40	4.31
	平年値	25.2	24.6	24.3	31.6	31.6	31.7	4.8	4.42	4.10
	平年偏差	-0.1	0.1	0.2	0.5	0.5	0.5	0.4	-0.02	0.21
	状況	平年並み	平年並み	平年並み	やや高め	やや高め	やや高め	平年並み	平年並み	平年並み
燧灘	4地点平均値	28.9	24.0	22.1	31.2	32.5	32.8	11.2	4.88	4.53
	平年値	27.5	23.8	21.7	31.7	32.0	32.3	10.1	5.01	3.17
	平年偏差	1.3	0.2	0.4	-0.5	0.4	0.5	1.1	-0.13	1.36
	状況	やや高め	平年並み	平年並み	平年並み	やや高め	やや高め	平年並み	平年並み	かなり高め

平年偏差 = 平均値 - 平年値

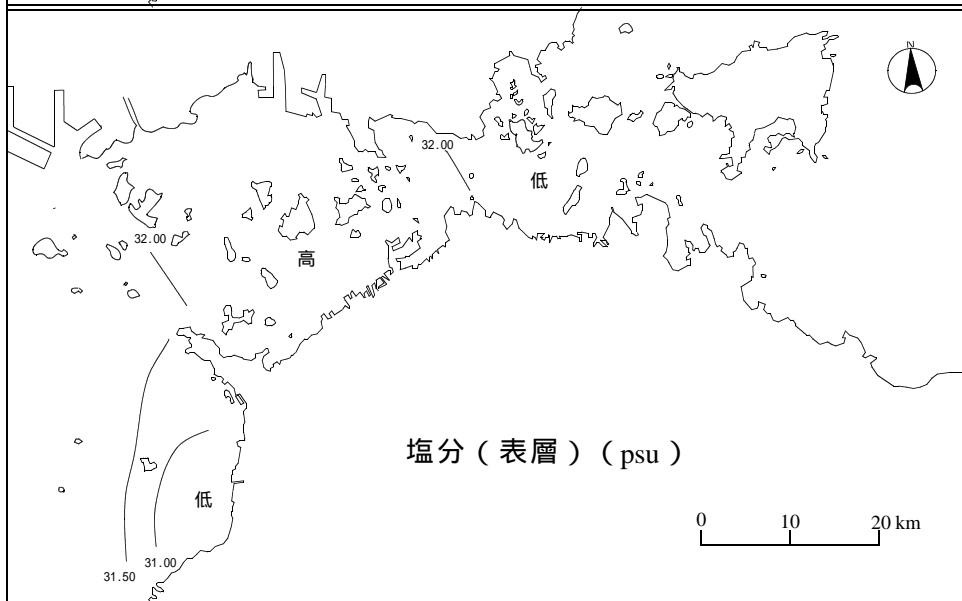
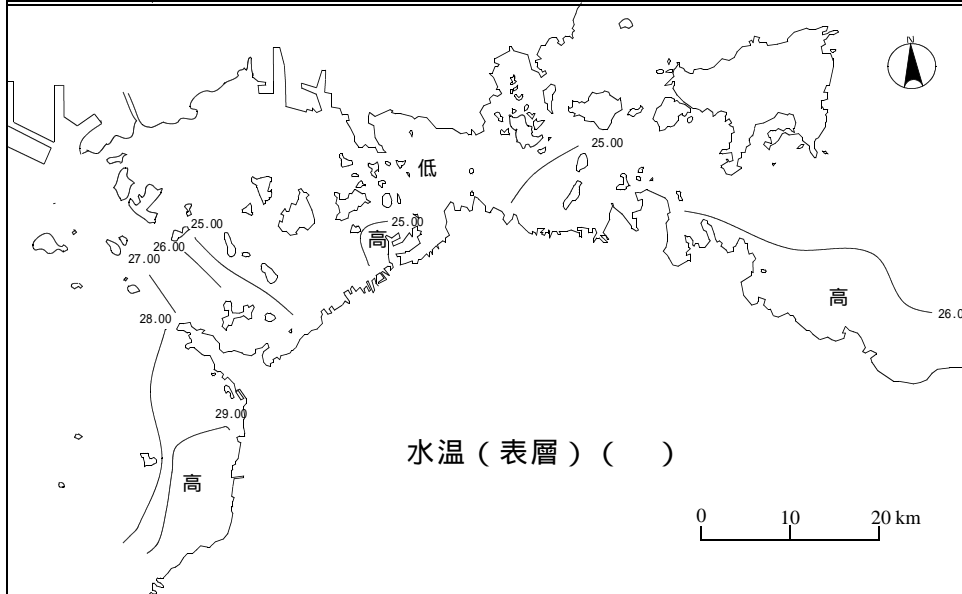
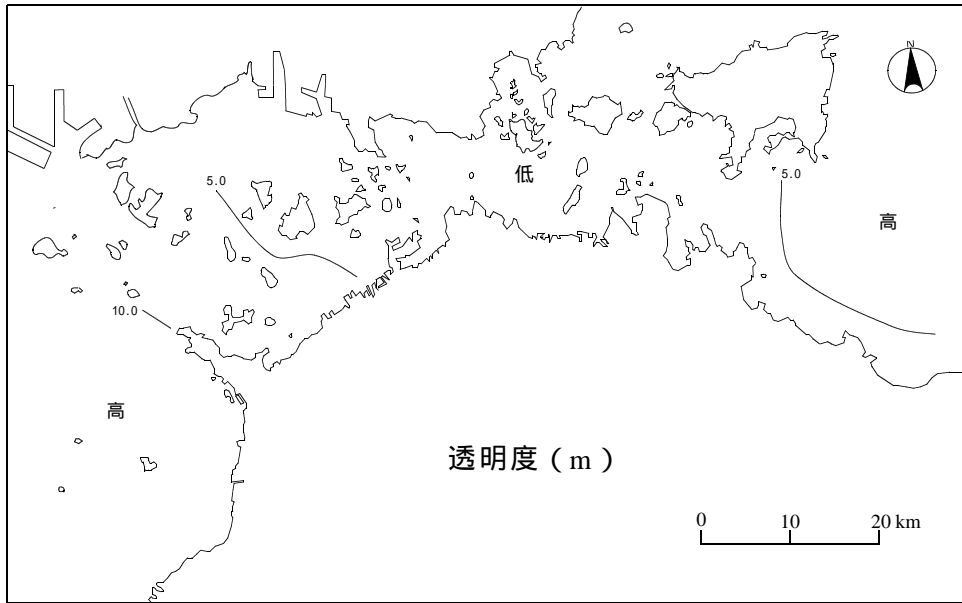
平年値の算出期間

水温、塩分及び透明度：昭和48年（1973）1月～平成13年（2002）12月

溶存酸素：昭和48年（1973）2月～平成13年（2002）12月

水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み	0	平年偏差 < 0.6	( : 標準偏差)
やや高め (やや低め)	0.6	平年偏差 < 1.3	
かなり高め (かなり低め)	1.3	平年偏差 < 2.0	
著しく高め (著しく低め)	2.0	平年偏差	



### 3) 定量観測(水温)

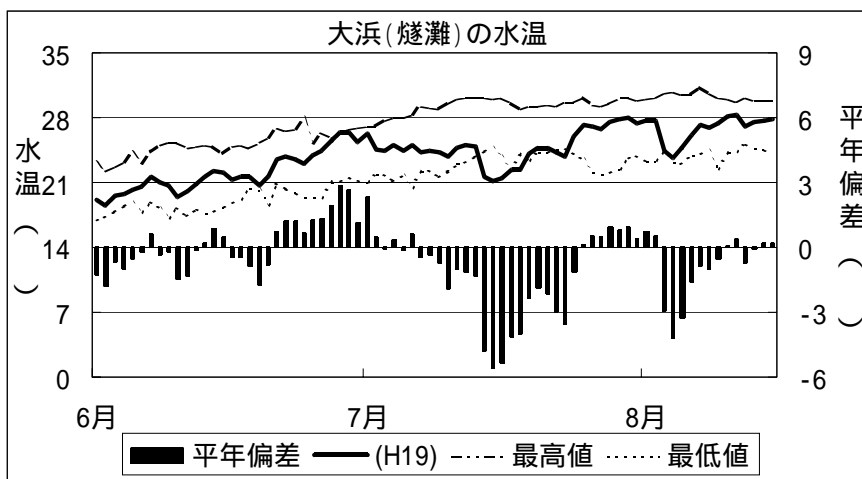
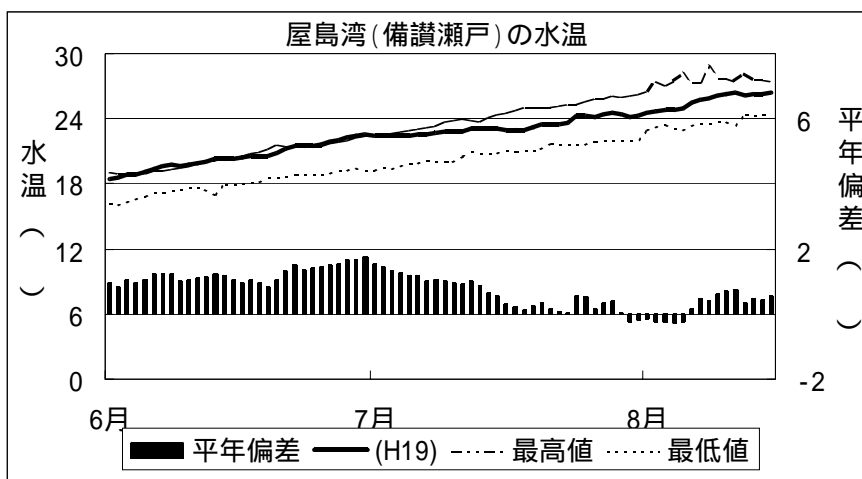
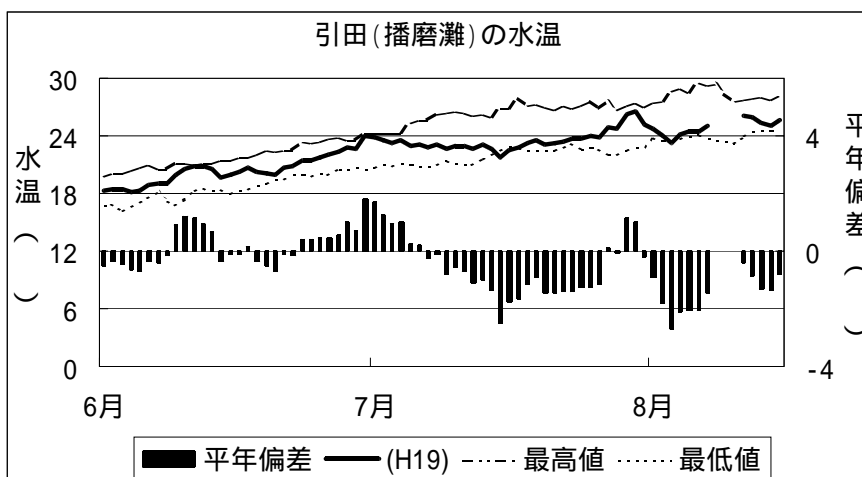
播磨灘(引田): 7月中旬は過去最低値を更新するなど著しく低め、それ以降もかなり低めから  
 平年並みで推移している。

備讃瀬戸(屋島): 7月中旬まではやや高めで推移していたが、それ以降はほぼ平年並みで推移  
 している。

燧灘(大浜): 7月中旬は過去最低値を更新するなど著しく低め、下旬は平年並み、8月第1週  
 はかなり低め、それ以降は平年並みで推移している。

平年値の算出期間 引田及び大浜: 平成元(1989)~平成18(2006)年

屋島: 昭和50(1975)~平成18(2006)年



**4) 赤潮(7月14日~8月16日)**

播磨灘：7月23日小豆島北東部でスケルトネマによる着色、24日に庵治沖、直島周辺でメソディニウムによる着色が確認された。また7月19日~23日に東かがわ市地先、小豆島東部において赤潮警報(シャットネラ)が発令された。

備讃瀬戸：発生なし。

燧灘：発生なし。

**5) 卵稚仔**

調査日：平成19年8月6日(播磨灘)、1日(備讃瀬戸、燧灘)

出現量

個(尾)/曳網

	カタクチイワシ		マイワシ		サワラ		その他の魚類	
	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	0.13	1.38	0.00	0.00	0.00	0.00	5.13	29.50
備讃瀬戸平均	1.73	1.53	0.00	0.00	0.00	0.00	13.67	9.93
燧灘平均	15.86	3.71	0.00	0.00	0.00	0.00	3.57	5.86
総平均	4.60	2.00	0.00	0.00	0.00	0.00	9.03	14.20

**対平年値**

	カタクチイワシ		マイワシ	
	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	0.8%	17.4%	-	-
備讃瀬戸平均	143.0%	154.5%	-	-
燧灘平均	69.0%	53.4%	-	-
総平均	22.7%	22.1%	-	-

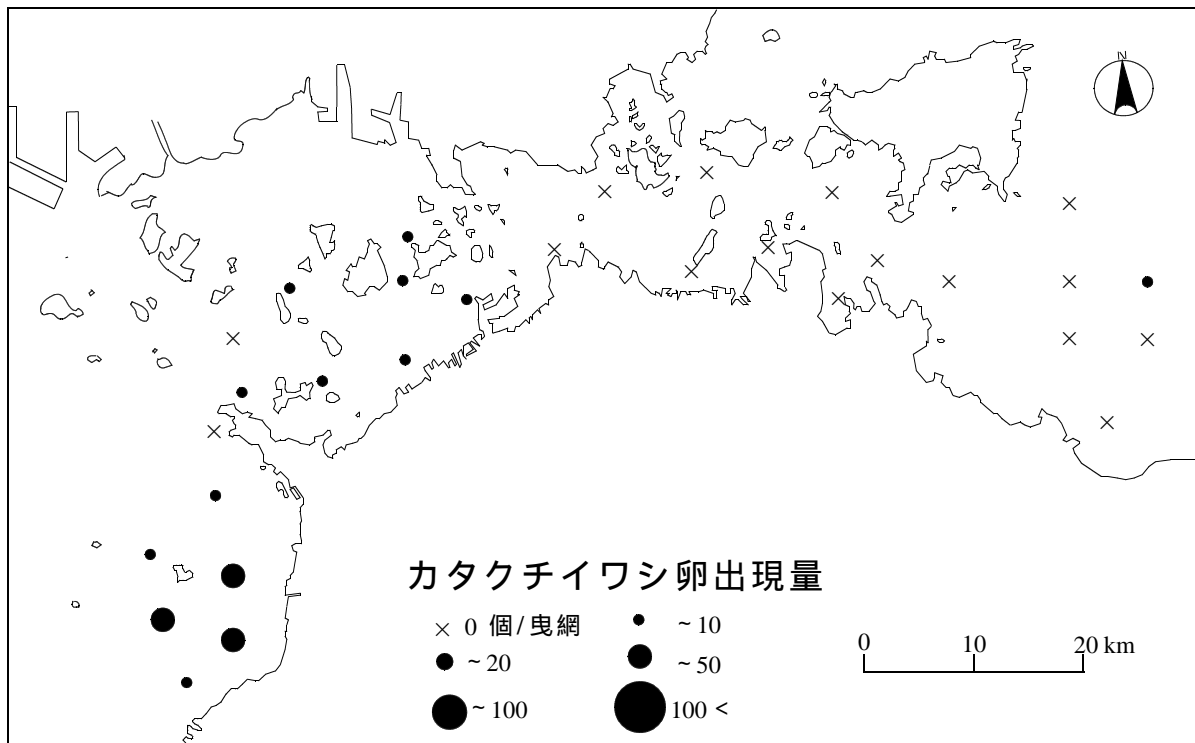
- : 平年値が0の場合を示す。

**平年値の算出期間**

カタクチイワシ：昭和55(1980)~平成18(2006)年度

マイワシ：平成5(1993)~平成18(2006)年度

各調査点でカタクチイワシ卵の出現は、次のとおりである。



## 2. 漁況

7月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	底びき網では、主に小エビ類、イボダイ等が漁獲されているが、特に、小エビ類が700～1000kg/日・隻と多い。大型定置網では主にマナガツオ、マルアジ、タチウオ、イボダイが漁獲されているが、全般的に低調である。東讃のシラス船曳網の7月の漁獲量は漁期当初（5月下旬）からの好漁が続き、前年の約6倍、平年（89-04）の約2倍であった。
備 讃 瀬 戸	底びき網では、主にウシノシタ類、メイタガレイ、アナゴ、マダイ、小エビ類、マダコ、テナガダコ、ガザミが漁獲されているが、特に、小型のマダコが多い。マナガツオ流し刺網は前年とほぼ同じ程度の漁獲模様である。
燧 灘	底びき網では、主にメイタガレイ、アカカマス、シロギス、タチウオ、小エビ類、オニオコゼ、マゴチを漁獲している。7月下旬頃からトリガイが漁獲され始めた。桁網ではスズキ、マルアジ、シマイサキが漁獲されているが、全般的に少ない。イワシ機船船びき網の7月までの漁獲量はチリメン、カエリ主体で約570トン、前年の約70%であったが、生産金額は前年の約85%であった。